

マレーシアの大学における外国語としてのマレー語教育の現状

ウン・シンティ、野元 裕樹

2013年12月6日 @ 語学研究所

本発表の目的

- マレーシアの大学3校を取り上げ、マレーシアの大学における外国語としてのマレー語教育の現状を把握する。
- インターネット上で公開されている情報および2013年9月に行った現地調査により得られた情報を報告する。

マレーシアにおけるマレー語教育

- 「国語」としてのマレー語教育
 - 対象：マレーシア国民
 - マレー語母語話者（主にマレー系、その他ブミプトラ）にとっては、第一言語のリテラシー教育
 - 非マレー語母語話者（華人系、インド系など）にとっては、第二言語教育
- 「外国語」としてのマレー語教育

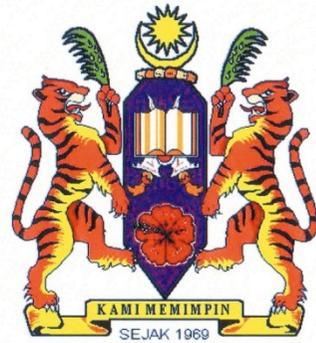
現地調査

- 日程：2013年9月18-28日（10日間）
- 訪問先：
 1. マレーシア理科大学（**Universiti Sains Malaysia**）
ペナン島州ジョージタウン
 2. マラヤ大学（**Universiti Malaya**）
クアラルンプール
 3. マレーシア国民大学（**Universiti Kebangsaan Malaysia**）
スランゴール州バンギ；本学の協定校



主な調査項目

- 学生数とその構成
- 授業の構成(レベル、時間数)
- 教材
- 達成度評価基準
 - CEFRまたはその類を知っているか？
 - “ を実施しているか？
 - “ の必要性を感じるか？



USM

UNIVERSITI SAINS MALAYSIA



www.usm.my

**UNIVERSITI
SAINS MALAYSIA**

マレーシア理科大学 Universiti Sains Malaysia (USM)

- 所在地： ペナン
- 設立年： 1969年
- ステータス： 国の第二の国立大学
- 学部： 17
- 課程： 自然科学、応用科学、医療健康、建築、
社会科学、人文科学、教育、薬学
- キャンパス： メインキャンパス(ペナン島)、
工学キャンパス(Nibong Tebal、ペナン
本土)、医療キャンパス(クランタン州)

言語・リテラシー・翻訳学部

School of Languages, Literacies and Translation



機能： 1) 第三言語として諸言語の授業を提供
2) 学部・大学院課程
3) 翻訳、編集、通訳の実務教育

選択科目： アラビア語、中国語（北京語）、日本語、
ドイツ語、韓国語、フランス語、
スペイン語、タミル語、タイ語

必修科目： 英語、マレー語

副専門科目： 中国語、日本語、アラビア語





言語・リテラシー・翻訳学部研究講義棟

マレー語プログラム

マレー語(予備) I

マレー語(予備) II

中級予備マレー語

マレー語 I

マレー語 II

マレー語 III

一年コース
(要求に応じ提
供)



マレー語プログラム

対象： 留学生(学部、大学院、交換留学生) /

マレーシア駐在の人

学生の所属・専門： 理科系、文科系、教育、建築

学生の国籍： 中東、中国、日本

教師人数： 6人

CEFR： 適用なし

LKM 100 – マレー語 I

対象： すべての留学生

(インドネシアの留学生を除く)

位置付け： 必修(卒業の条件)

レベル： 初級

語彙： 500くらい(名詞、動詞、形容詞、
機能語)

学期： 每学期開講

受講学生数： 200 (一学期の平均)

190 (秋学期—メインキャンパス)

215 (秋学期—全キャンパス)

クラス数： 14-16

授業時間数： 4時間/週

56時間/学期

教材・テキスト



USM出版の教科書

LKM 200 – マレー語 II
LKM 300 – マレー語 III

対象：留学生

(インドネシアの学生を除く)

位置付け：必修(文科系)

レベル：中級

人数： 25人 (II)

36人 (III)

} 2013年第二学期

成績評価の尺度

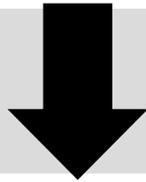
成績	ポイント	カテゴリー
A	4.00	合格
A-	3.67	
B+	3.33	
B	3.00	
B-	2.67	
C+	2.33	
C	2.00	
C-	1.67	不合格
D+	1.33	
D	1.00	
D-	0.67	
F	0.00	

LKM100マレー語I授業中の様子



レベル分け

初級から始まる



プレースメントテストなし

初級以上から始まる

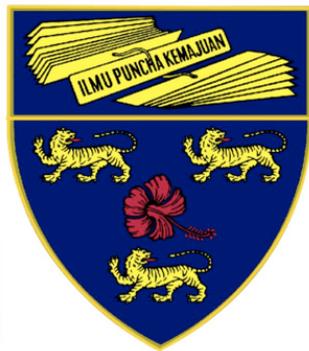


- 成績証明書
例①:南タイからの留学生は証明書を提出するが、そこから実際のレベルを予測することは難しい。

例②:他の国内大学の証明書とシラバスが提出される場合はOK。
*他の大学がシラバスの詳細を収集し、情報を蓄積する必要あり。
- 面接
口頭面接でレベルを判定

CEFRに関して

- [CEFRという名前を出して]
聞いたことがない。
- [こちらでその内容を説明した後]
ヨーロッパの言語でそのようなことをやっているのを聞いたことがある。
- [マレー語にもそのようなシステムが必要か？]
必要。ただし、大学ごとにそれぞれ独特なシステムやポリシーがあり、国内大学間で一致することは難しいだろう。



**UNIVERSITI
MALAYA**
K U A L A L U M P U R



マラヤ大学

Universiti Malaya (UM)

- 所在地：クアラルンプール
- 設立年：1962年
- ステータス：国で最初の大学
- 学部：17
- 課程：科学、医学、経済・行政学、工学、
法学、言語・言語学、人文科学、
教育など。

生涯教育センター
Centre for Continuing Education (UMCCED)



- 設立年： 1998年
- 機能： トレーニング及び教育プログラムとして
様々な分野の短期コースを提供。
- 対象： 留学生、 行政職員、 起業家、 トレーナー、
プロのコンサルタントなど。

課程：

1. Executive Diploma
2. Certificate Course
3. Certified Business & Executive Coach
4. 企業研修
5. 英語コース
6. Hospitality Course

コミュニケーションプログラムのための集中 マレー語プログラム

モジュール I

モジュール II

モジュール III

モジュール IV

対象：大使、公務員、マレーシア駐在の人、
留学生

学生の国籍： 中東、東アジア、東南アジア

留学生人数： 50-60人

所属・専門： 様々な分野

教師人数： 3人

クラス数： 15-20

授業時間数： 4時間/週

56時間/学期

学期： 每学期開講

CEFR： 適用なし

授業詳細

内容：

参加者は文法、数字、時間マーカー、前置詞、簡単な文を読んで言葉の意味を理解し、内容理解問題に答えること、短い文章を書くことに集中。

モジュール I

時間： 110時間 (週5回)

レベル： 初級(文の構造が中心)

位置付け： 留学生(必修)

モジュール II

時間： 110時間(週5回)

レベル： 初級(文法が中心)

モジュール III

時間： 100時間(週5回)

レベル： 中級(文法と文化体験)

*SPM (高校卒業資格) に相当する

モジュール IV

時間： 100時間(週5回)

レベル： 上級(一対一)

成績評価の尺度

成績	ポイント	点数
A	4.00	80-100
A-	3.70	75-79
B+	3.30	70-74
B	3.00	65-69
B-	2.70	60-64
C+	2.30	55-59
C	2.00	50-54
C-	1.70	45-49
D+	1.30	40-44
D	1.00	35-39
F	0.00	00-34

レベル分け

- 情報なし

CEFRに関して

- 聞いたことがあるが、適用されていない。
- ポイント制度を適用する。
[CEFRのような達成度に基づく評価基準と個々の科目の成績の区別があまり付いていない？]

Selamat Datang Ke Universiti Kebangsaan Malaysia

Mengilhamkan Harapan, Mencipta Masa Depan



www.ukm.my

マレーシア国民大学
Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)

所在地：スランゴール州バンギ

設立年：1970年

ステータス：国立大学

学部：13

課程：情報科学、工学、経済学、医学、法学、建築、
イスラーム研究、人文社会科学、教育など。

キャンパス：メインキャンパス、
Jalan Raja Muda Abdul Aziz キャンパス、
Cheras キャンパス

マレー世界・文明研究所
Institut Alam dan Tamadun Melayu
(ATMA)

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

レベル5

レベル6-8

一般教育センター
Pusat Pengajian Umum (PPU)

レベル1

レベル2

マレー世界・文明研究所
ATMA

اينستتوت عالم دان تمدون ملايو
Institut Alam dan Tamadun Melayu
Institute of The Malay World and Civilisation

機能：マレー文化と文明を世界に紹介。

コース：修士課程、博士課程

1. 考古学、文化とビジュアルアーツ
2. マレー文学、言語学
3. 理論の構築とマレー認識論
4. マレー世界の科学技術

マレー世界・文明研究所
Institut Alam dan Tamadun Melayu
(ATMA)

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

レベル5

レベル6-8

} 要求に応じる

時間： 100時間/レベル

(60時間授業＋40時間課外活動)

位置付け： 大学の正規の科目ではなく、ATMAが主催する独立の語学講座。大学の単位にはならない。

学生の国籍： 中国、日本、欧米、中東

教師の人数： 4人

教材： UKM出版教科書

CEFR： 適用なし

レベル分け

- 特に決まった方法はなさそう。
- 多くの場合、学生の自己申告
- 読解能力
(文章を読んでどのぐらい理解できるのかの検査。)

CEFR

- [CEFRという名前]
初めて聞いた。
- [CEFRのようなシステムは必要か？]
あったらよい。

一般教育センター



機能：マレー語と英語の話す・書く両方の効果的なコミュニケーションができる人間を育成。

コース：英語コミュニケーション課程、マレー語、イスラームとアジアの文明など

一般教育センター
Pusat Pengajian Umum (PPU)



レベル1



レベル2

対象：学部・大学院

位置付け：必修

(1992年以降、大学院の必修科目になっている)

学生の国籍：中東、東南アジア

所属：工学、理学

CEFR：適用なし

レベル分け

- 情報なし

CEFRに関して

- CEFRという言葉を知ったことがない。

まとめ①：一般

- マレーシアの大学における外国語としてのマレー語教育は各大学で行われている。
- 主に中東や東南アジアからの留学生に対する初級レベルの必修科目が中心。
- 中級、上級レベルは、現地と密に関わろうとする東アジアや欧米からの留学生に対し、必要に応じて提供されている。教材や教育法は未整備。

まとめ②: CEFR関連

- 聞き取りを行ったマレー語教育担当者全員 (USM1, UM1, UKM3) がCEFRという名前を聞いて、聞いたことがないという反応。
- CEFRに代わる明確な到達度評価基準は存在しない。それにより問題も生じていない。
- CEFRのようなシステムが必要かと聞けば、必要だろう、という答えが返ってきたが、それほど切迫感はない。

考察①: 教材・教育法確立の必要性

- 外国語としてのマレー語教育は、個々の大学で独立して行われ、大学間の連携はない。中東や東南アジアからの留学生が多数存在し、初級レベルでの需要は存在するので、大学間の連携により、教材や教育法を確立することには意味があるだろう。
- CEFRのようなシステムは、その過程で必要に応じて導入されることになるのかもしれない。

考察②: マレー語教育のポテンシャル

- マレーシアには158万人(総人口の約5%)の合法外国人労働者がいる(2012年)。
出身国: ①インドネシア②ネパール③ミャンマー④バングラデシュ
- 現在、マレーシア政府は彼らに対し、基本的マレー語力の習得を義務付けていない。
- 政府や企業がマレー語能力を雇用の条件とすれば、初級レベルの学習者は飛躍的に増え、到達度を客観的に示す指標も必要になるだろう。